



ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む
にほんじん がいこくじん なかよ たす あ 日本人と外国人が、仲良く助け合っ
たの せいかつ ねが かつどう 楽しく生活していくことを願って、活動を
つづ 続けています。

くろするる〜ど

2023/12月号 第287号

かいほうし
会報誌



〜サロン月間カレンダー12月〜

「日本語教授法研修IIを終えて」

日本語学習会

けんしゅうぶかい かよう ゆみこ
研修部会 萱生 由美子

日時：12月1日(金)～12月22日(金)
月(午前・午後) 水(午後) 金(午後・夜)

場所：フチュール会議室・学習室ほか

*12月の土曜学習会は以下の2回です。

日時：12月2日・16日(土)午後2時～4時

場所：フチュール第1会議室

実行委員会

日時：12月13日(水)午前10時～昼12時

場所：フチュール第1会議室

日本語学習発表会

日時：12月9日(土)午後1時半～4時
(受付は午後1時より)

場所：フチュール第1・2会議室

内容：第1部 学習者による発表会
第2部 懇親会

フチュール休館日

12月8日(金)・23日(土)・29日(金)～31日(日)

*1月1日(月)～3日(水)も休館です。

*以上の件について、詳しいことはサロン事務局で
聞いてください。

9月14日からスタートした研修IIは、10月の「音声」と「在留資格」の二つの講習会も含めて11月2日にすべて終了しました。初級IIの山場は尊敬語、謙譲語等の敬語表現です。最終日は3グループによる敬語表現を使ったロールプレイの発表がありました。

グループ1 「結婚式の相談」
若い二人とその母親達の会話。

グループ2 「お疲れ様でした」
銀行支店長の送別会。支店長と部下の会話。

グループ3 「35年間お疲れ様でした」
定年退職する部長と部下の会話。

いずれのグループも状況にふさわしい敬語表現が使われており、語彙もほとんどが初級レベルのものでした。シナリオも、身近な場所を設定したユーモア溢れる会話や、バブル期を思い出させるリアリティーに富んだ会話、そして、話者自身の体験を盛り込んだ会話など、夫々が良く考えられた完成度の高いものだったと思います。

終了後の、多くの方達の感想は、研修は難しかったがグループの人達と仲良くなれて楽しく学べた、とのことでした。半年に及ぶ研修お疲れ様でした。皆さんのこれからの活躍に期待しております。研修I・IIの講義を担当していただいた山田しげみ先生には、誌面を借り、お礼を申し上げます。



世界の文化

「DIVEの交流イベントに参加して」

孫 銘鈺 (中国)

9月23日、私は府中市多文化共生センターDIVEの交流イベントに参加し、観光ボランティアとDIVEの通訳さんと一緒に、大國魂神社から始まる府中市の歴史と文化を探索しました。

まず、観光ボランティアは府中市の地理的位置を紹介しました。東京都の西南部に位置し、奈良時代初期から平安時代中期まで、府中市は武蔵国府として、政治、文化、経済の中心地でした。府中市はいくつかの歴史的な建造物や文化遺産を保存しています。例えば、大國魂神社があり、これは歴史ある神社です。

大國魂神社は私たちの旅の出発点でした。ボランティアの案内で、神社の鳥居をくぐり、神秘的な土地の厳かな雰囲気を感じました。ボランティアの説明を聞きながら、大國魂神社の歴史に興味を持ちました。特に、参拝の仕方や、狛犬、手水所など、それぞれに意味があることを知りました。府中市には6年間住んでいるにもかかわらず、今回の解説で初めて大國魂神社を本当に理解したように思いました。



国府巡りの参加者と孫さん(後列右から5番目)

その後、私たちは武蔵国府跡国司館と家康御殿史跡広場を訪れました。ここは飛鳥~奈良時代の初め頃から平安時代の終わり頃にかけて武蔵国を治め

た行政機関の長、国司の居宅兼執務室「国司館」がありました。ここで私たちは国司館建築の1/10の模型を見学し、VR専用スコープを通じて当時の情景を視聴しました。とても面白いと思いました。

この歴史の旅は、府中市の豊かな文化遺産についての深い理解を私にもたらし、この土地の歴史について、より広い知識を得ることができました。観光ボランティアとDIVEの通訳さんに感謝します。

「作文コンクールの原稿を紹介します」

第26回「世界の日本語学習者・研究者『日本語作文コンクール』」(nihonwosiru.jp)に応募した原稿を随時、紹介します。

「日本語と私」

プラディーシュ プラバデヴィ (インド)

みなさん、こんにちは。

私はプラディーシュ プラバデヴィです。インドしゅっしんです。夫の仕事ではじめて日本に来ました。その時日本語は、ぜんぜんわかりませんでした。日本語が話せないのも、いつも夫といっしょに出かけていました。夫がいない時は家にいるだけでした。

インドのともだちのしょうかいで日本語の教室があると知り、二人でいっしょに行きました。

さいしょにあいさつを学んだので買い物に行った時使ってみました。日本人があいさつをしてくれました。私もあいさつをしました。日本語が一言でも話せてうれしかった。このようにして日本人から少しずつ日本語を学びました。

そしてボランティアの方が、子どもがあそべるアプリをしょうかいしてくれました。そのアプリは「にほんごーひらがな」と「にほんごーカタカナ」です。このアプリで、あそびをとおして字をかんとんに学ぶことができました。できたのでお店のかんばんを見て読んでみました。読んだ時「やった」と私は小さい声で言いました。

漢字とカタカナはとてもむずかしかったです。長いカタカナはたいへんです。たとえば「パチンコースロット」を「パチン・コース・ロット」と読みました。私の読みかたはおもしろいかもしれませんね。

私はしゅっさんのためにしばらくインドにかえりました。日本へもどった時日本語をぜんぶわすれていました。

そのあと「ふちゅうこくさいこうりゅうサロン」で二年間べんきょうしています。しんせつな先生たちのおかげで、じゆうに日本語で話すことができるようになりました。今では日本語は私のたいせつなともだちになりました。

日本語をしゃべれるようになってともだちもできました。今私は漢字を少しですが読むことも書くこともできます。

今では娘もほいくえんで日本語を話します。かのじょが私より上手に話せることをほこりに思います。わからないことは娘に聞くとおしえてくれます。私と娘の知らないことは夫にたずねます。娘たちは日本語であいさつをしています。日本語は私たち家族のともだちです。

外国語を学ぶことはたいへんだと思っていましたが、日本語で話せるようになると思っています。

私は今、日本語を使って自分の知らないことをえんりょなく人に聞くことができます。

日本人と先生にかんしゃしています。日本と日本語にはとくべつにかんしゃしています。



「生け花展示会に参加して感じたこと」

ウォン ヒヨン (韓国)

私は昨年の10月から月に一回ずつ生け花の授業を受けています。生け花は茶道、書道とともに日本を代表する文化だと知っています。授業時間、先生たちの助けで生け花の仕方を学ぶことになりました。

私は生け花が大好きです。様々な種類の花と木の枝、実、草の葉の美しい調和を考えながら生け花に集中する時間は、私にとって多くの心の癒しになります。

今回、機会があって初めて生け花展示会に参加することになりました。国際交流サロンの方々の作品を見て、それぞれの個性と素晴らしい作品を楽しむことができるとても嬉しかったです。やはり実力が優れています。

ある方はお庭で大切に育てた植物や花を持ってきたり、葦を持ってきて素敵な作品に仕上げたものを見て感心しました。道端の野草も美しい素材になるという点が印象深く、繊細な野草と調和した生け花はさらに特別に感じました。

いつか私も機会があれば、自分で育てた植物や、あまり試したことがない草で生け花をしてみたいと思います。そして木の枝に絵の具を塗って新しいスタイルを作ったり、花と調和しにくい人工的素材を使った作品もかなり魅力的です。自然な素材だけでなく人工的な素材まで使って生け花するのは難しくですが、独創的で思ったより似合っていて、とても素敵でした。

短い時間でしたが、生け花を通して秋の趣を感じることができて嬉しく思います。一緒にご参加いただきました皆様と、お助けいただいたボランティア、スタッフの方々に大変感謝しております。



ウォンさんの作品



参加した学習者とウォンさん(後列左)



わたし
私のふるさと～48～
わたし
「私のふるさと 東京(大田区)」

すいようごご かしま のぶあき
水曜午後ボランティア 鹿島 伸明

わたし う とうきょうとおおたく いけがみ
私の生まれは、東京都大田区の池上というところ
いけがみ おおたく ま なか やま て はし
です。池上は、ほぼ大田区の真ん中で、山の手の端
ちようえいざん ほんもんじ いけがみほんもんじ もんぜんまち
にある長栄山本門寺(池上本門寺) 門前町として
さか げんざい いた いけがみ ちいき
栄え、現在に至ったのが池上という地域です。その
いけがみ ちめい ち す
「池上」という地名は、むかしむかし、この地に住む
いけがみ し ちめい しつちたい かめ
池上氏からこの地名になった・・・とか、湿地帯で亀
おお いけがめ しよう いけがみ
が多く「池亀」と称され、それが池上ということに
なつた・・・とか(とか=“格助詞”「と」+“副助詞”
「か」=はっきりしないこと)、いろいろあり、どれ
ただ わ
が正しいかは分からないようです。

めいぶつ ひと ほっこう かんとうどく
名物の一つとして、でんぷんを発酵させた関東独
とく くずもちほっしょう ち いけがみ
特の「くずもち発祥の地」が、池上であることは、あ
まり知られていないかもしれません。江戸時代から
し えどじだい
「くずもち」は葛粉(マメ科の「葛」)を材料とし
つく とうめい くずもち こむぎ つく にゅうはく
て作る透明な「葛餅」と、小麦でんぷんで作る乳白
しよく くずもち きぶん
色の「久寿餅」があります。参考：紀文アカデミー
(<https://www.kibun.co.jp/>)



くずもちいけがみ いけだや
久寿餅(池上の池田屋のメニューより)

いけがみほんもんじ しゅうへん しにせ のき つら もんぜん
池上本門寺の周辺には老舗が軒を連ねます。門前
まち ふぜい いろこ のこ しょうてんがい こうそう
町の風情を色濃く残した商店街もあります。高層
た なら としん すこ はな ふる
ビルが建ち並ぶ都心から少し離れたところに、古く
でんとう だいじ たいせつ のこ まちな
からの伝統を大事・大切に遺している街並みがあり

おおたく にほん そら げんかん
ます。そのほか、大田区には日本の空の玄関といえ
はねだくこう げいのうかい かい ゆうめい ひと
る“羽田空港”、芸能界やスポーツ界などの有名な人
す でんえんちようふ
たちが住む“田園調布”、それから、“平和島競艇
じよう とう
場”があります。

ふしぎなのは、この平和島競艇場を運営するのは、
とうきょうとおおたく おおたく じつ ふちゆうし げんざい わたし
東京都でも大田区でもなく…実は府中市。現在、私
ふちゆうす
は府中に住んでいますので、不思議な結びつきを感
じています。

また、府中市にある多摩川競艇場の運営は、開場
ふちゆうし たまがわきようていじよう うんえい かいじよう
当時から青梅市が運営を担い、1967年から都四市競
とうじ とうめいし うんえい にな じつ ふちゆうし げんざい わたし
艇事業組合(小平、日野、東村山、国分寺市)が加わ
ていじぎょうくみあい こだら ひの ひがしむらやま こくぶんじし
っています。これも不思議な感じがしますね。

しゅつしよ よみうりしんぶん
出所：読売新聞オンライン／

その他：大田区<https://www.city.ota.tokyo.jp/>



いけがみほんもんじ そうもん いしだん
池上本門寺の総門と石段



皆さんよろしく◇学習者紹介

ヤニック トーラン
YANNICK TAURANさん(フランス)



「ご縁はお祭りです」

2017年に来日し、5年が経ちましたが、サロンで勉強を始めたのは、今年の9月からでした。

南フランスのトゥールーズで生まれ、リヨン大学を卒業して、リヨン大学で仕事をしていました。

現在は、リヨン大学と東京大学の共同研究のエンジニアとして駒場東大の研究室で働いています。

奥様は日本人で、4年前に港区のお祭りで逢ったのがご縁で結婚しました。

府中に住む前は、港区に住んでいましたが、広い家に住みたいと思って、府中に引っ越してきました。

趣味はハイキングで、高尾山や富士山にもしばしば出かけしています。また、お料理をするのも大好きで、フランス料理を作ったりしています。

日本の食べ物ではしゃぶしゃぶや焼き肉が好きで、フランス料理では、ラクレットのチーズなどを使ったお料理が好きとのことです。

日本の印象は、人々が親切で、食べ物がおいしいということです。

日本語の文法は勉強しましたが、会話の勉強がしたいと思って、サロンにきています。奥様とは今でも英語で会話をしているそうですが、奥様が府中国際交流サロンをネットで探してくださったそうで、奥様と日本語で会話ができる日も近いのではないかと思います。(取材・文構成 堤林)

新ボラさん こんにちば

「ドイツでの体験を学習者との接点に」

月曜午後ボランティア 岩佐 裕二

今年度の日本語教授法研修会に参加させていただいております岩佐と申します。『広報ふちゅう』をみた家内から受講してみたらと言われたのですが、ぐずぐずしているうちに時間が経ち、確か最後の一席(?)に滑り込んだのではなかったかと思えます。

自分が府中に転入したのは今年の1月で、それまではドイツで日系企業の駐在員として約30年間働いておりました。ドイツ滞在中に定年を迎え、再雇用でも働きましたが、年齢も年齢ですので退職し、日本に帰国することに決め、家内の実家に比較的近い府中に居を定めたわけです。

帰国当初はのんびり毎日を過ごそうとも思いましたが、まだ身体も動きますし、何かボランティア的な活動をしたいと考えました。ただ、自分には特技もなく、漠然と外国人との接点がある活動が良かろうと考えておりましたところ、日本語を介するボランティア活動が目にとまったわけです。

ドイツでの生活を振り返ると、特に私生活ではそれなりに大変な思いをすることも多く、もっと言葉ができれば、あるいはもっと生活環境をよく理解しておれば簡単に対処できただろうにと思うことがたくさんありました。

そのようなわけで、身近にいる外国人の方々が困っていることなどがあれば、少しでも力になればうれしいと、錆びついた頭に活を入れつつ日本語および日本事情の勉強を始めている次第です。覚えが悪く、戦力になるまで時間もかかるでしょうが、暖かくお付き合いいただけましたら幸いです。何卒、よろしく願い申し上げます。

～日本語教授法研修Ⅱ特別講習会報告～ 「**知っておきたい在留資格の基礎知識**」

研修部会 佐藤 英子

10月21日（土）、在留資格特別講習会が開かれました。これは「日本語教授法研修初級Ⅱ」の必修科目でもあり、その受講者を含めた計26名の参加がありました。講師は金曜日午後部会の寺岡奈都子さん。寺岡さんは現役の行政書士で、入管業務が専門です。当日はその立場、経験からの生き生きとした、有益なお話を聞かせていただきました。

そもそも在留資格とは何か？日本に滞在するすべての外国人は一人につき一つの在留資格を持つことになっており、現在は29種類に分かれています。その分類は就労の可・不可が基準となっており、例えばサロンで学んでいる留学生や家族滞在者（就労資格者で滞在する外国人の配偶者・子）は基本的には就労はできませんが、申請し、認められれば週28時間の就労が可能で（風俗営業等を除く）その許可は、常に携帯することになっている在留カードに記載されます。

また、留学生が卒業後、日本で就職する場合には、就労の在留資格を入管に申請し、結婚で母国から配偶者を呼び寄せる時にも申請、転職する場合にも申請（在留期間内なら任意だが、後々のトラブルを避けるためにもやっておいた方がよい）、そして子どもが生まれて申請と、日本で生活する外国人は生活状況が変化するごとに、それに関連する書類を入管に申請し、資格を取得する必要があります。

では、「日本での生活も長くなり慣れたので、どんな仕事にも就ける永住権を取得しようか」となった場合はどうでしょうか？

この場合もクリアしなければならない様々な条件が、以下にあります。

- ① 10年以上の滞在
- ② 年金・健康保険・税金をきちんと払っている
- ③ 一定以上の年収
- ④ 扶養家族を増やさない

⑤ 素行が善良（凶悪犯罪は無論のこと、駐車違反などの交通違反もしない）等々です。

（ちなみに日本人に帰化希望の場合は、管轄は法務局となります）

寺岡さんが今、関わるのが多い就労系在留資格の一つ「技術・人文知識・国際業務」についてもお話しいただきました。この資格は、大学や専門学校を卒業した留学生が日本で就職する場合に申請しますが、これまでは業務と学歴の関連が明白に認められないとの理由で、専門学校卒業生が不許可になるケースも多かったそうです。が、今後は専門学校生が就労しやすいようにガイドライン改正が予定されています。

在留資格は複雑で、頻繁に改正される法律です。もし外国人に相談されたら、私たちボランティアはなまはんか発言は避け、まず、専門の行政書士、外国人在留支援センター、出入国在留管理庁（立川に支庁あり）等に行くようにアドバイスしましょう。

講習会は2時間では足りないくらいの熱気に溢れていました。質問でも言及された技能実習生の問題だけでなく、資格を取り日本で就労・生活していくことは一部の資格を除いては、かなりハードルが高いものと感じました。

金曜日午後の漢人さんに講習会の様子をYouTubeで見られるようにしていただきました（11月末まで）。寺岡さん、漢人さん、今回はご協力いただき本当にありがとうございました。



「サイコロしたことある？」

きんやよる **金曜夜ボランティア** わだ やすひろ **和田 泰弘**

しょうがっこう ねん まごむすめ **小学校3年の孫娘**から、先日、こんなことを聞かれました。「じいじ、パン作ったことある？」。

「あるよ」と答えると、「あっ！じいじ、パンツ食ったんだ」と、はやし立てられました。それが受ける、と、矢継ぎ早に、「理科、ちゃんと勉強してる？」と畳みかけてきました。(それは、こちらが言うセリフだぞ、とおもいつつ)、「ちゃんと勉強したよ。昔ね」と返すと、「あっ、じいじ、リカちゃんと勉強したんだ！」と、また一本取られました。こんなのもありました。「サイコロしたことある？」。これは、「あるよ」と答えると、「サイ、殺したんだ」となります。

わたし しょうがくせい **私が小学生のころにも似たようなことば遊び**がありました、どうやら、この、ことばの区切り遊びは今でも子どもたちの間で脈々と続いているようです。文でいうと句読点の位置で意味が変わってくる、という現象を楽しんでいるのですね。

でんぽう **電報という手段が一般的であった時代の、古典的**な例として、「寝台車 手配頼む」があります。電報の文面は、「シンダイシャテハイタノム」のようにカタカナで書かれ、受け取った人は「死んだ 医者手配頼む」と受け取ったのでした。

つれあひ **連れ合いには、自分の幼少時の思い出として、母**からよく聞いたというこんな話があります。寝ているそばで母がよく歌ってくれる好きな歌があり、それを聞きたいときには「ビヨリヌの歌」と言って、せがんだそうです。母は持ち歌がたくさんあったようで、「ビヨリヌ」という題名には覚えがないし、何曲か歌って聞かせると、娘が「それ！」と言ったのがロシア民謡の『カチューシャ』だったとのこと。「君なき里にも春はしのびよりぬ」という一節は、幼い脳には、「の」が本能的に助詞として区別され、「ハルワシの ビヨリヌ」と心に刻まれたのでしょうか。

しんねん こうりゅうかい ちゅうし **以下の「新年サロン交流会」は、中止になりました。**
ねん がつ にちこうしん **2023年12月15日更新**

「新年サロン交流会のお知らせ」

~~— サロンの活動の場が「フューチャー」に移ってから10カ月が経とうとしています。その間、新しい学習者も増え、また教授法研修を修了した新しいボランティアさんも9月から活動を始めています。これらの新しくサロンに参加された方々を交えて、サロンで活動をするボランティア、学習者の皆さんの交流を深めるために「新年サロン交流会」を開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています！~~

~~■日時：1月27日(土) 午後1時開始~~

~~— (4時終了予定) —~~

~~■場所：住吉文化センター講堂~~

~~— (フューチャーから徒歩5分) —~~

~~■対象：学習者とボランティア (参加費無料)~~

~~■内容：各国文化の紹介、ゲーム、ダンスなどを楽しみながら、皆さんで歓談します。~~

~~*参加される方は、事務局にある申込み受付簿に名前を記入してください。(企画部会)~~

ねんまつねんし について ～年末年始のサロンの日程～

ねんまつねんし にほんごがくしゅうかい **年末年始の日本語学習会とサロン事務局の日程**をお知らせします。

■日本語学習会：最終日・12月22日(金)
開始日・2024年1月5日(金)

■サロン事務局の開館日：
12月25日(月)～28日(木)
午前9時半～午後4時半
(1月4日も同じ時間帯で開いています。)

*詳しいことは、サロン事務局で聞いてください。
(編集部)



「日本語を誌上で学習しよう！」

今回は、「みんなの日本語」Ⅱ標準問題集の第29課からの出題です。日ごろの学習の成果を試してみましよう。例のように、【 】の**ことば**を適切な形に変えてください。

例：ちょっとお茶でも飲みませんか。【送ります】
この資料を送ってしまいますから、ちょっと待っていただけませんか。

■問題

- ミラーさんにもらったケーキは？【食べます】
…もう全部_____。
- その本、おもしろいですか。【読みます】
…ええ。わたしはもう_____から、貸しましょうか。
- いっしょに帰りませんか。【します・やります】
…すみません。あしたの会議の準備を_____から、お先にどうぞ。
- レポートはもう書きましたか。【書きます】
…いいえ、まだです。あしたから忙しくなりますから、今晚_____。
- 部長は何時に出かけるんですか。【出かけます】
…もう_____よ。



* 答は編集後記の後にあります。

～編集後記～

日本や世界では毎日のように記念日があるようです。例えば、12/1は映画の日、防災用品点検の日、12/5は国際ボランティアの日、12/10はアロエヨーグルトの日、12/12は漢字の日、12/14は麺の日です。

ベトナムでは、11/20が先生(教師)の日だったそうです。ユネスコが「世界教師の日」として制定している10/5は、日本でも「教師の日」とされているようですが、世界では国により日にちも違い祝日もあります。日本は先生に感謝しないの？と思う国も…。

中国の作家・魯迅は、日本留学で知り合った藤野先生を終生の恩師と慕いました。私たちも人生を開いてくれた先輩・先生・師匠と言える人がいるのではないのでしょうか。その先人に学び、これからも日本語教育を通して学習者の道を開いていけるように尽力しようと思っています。(末田)



「日本語を誌上で学習しよう！」の答

- 1) 食べてしまいました
- 2) 読んでしまいました
- 3) してしまいます・やってしまいます
- 4) 書いてしまいます
- 5) 出かけてしまいました

【創刊】 1997年11月

【編集】 編集長：和田泰弘

会報部会：堤林・和田・岩城・末田

【事務局】 電話：042-352-4178

E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>

